甲斐市文化財調査報告 第3集 (山 梨 県)

# 三 味 堂 遺 跡

マンション建設に伴う平安時代遺跡の発掘調査報告書

2005

甲斐市教育委員会

# 三 味 堂 遺 跡

マンション建設に伴う平安時代遺跡の発掘調査報告書

2005

甲斐市教育委員会

# 例 言

- 1. 本書は、山梨県甲斐市中下条地内に所在する三昧堂遺跡の第1次調査をまとめた発掘調査報告書である。
- 2. 本調査はマンション建設に伴い実施され、調査面積は約463㎡である。発掘調査、整理調査、報告書刊行ま での経費は、地権者である長田ゆき子氏が負担した。
- 3. 調査は試掘調査を大嶌正之(当時敷島町教育委員会)が担当し平成12年2月14~17日まで行った。本調査 は大嶌が担当し、平成12年7月21日~平成12年8月23日まで行った。整理調査は断続的に行った。
- 4. 調査組織は以下のとおりである。

調查組織

調査指導・主管 敷島町教育委員会 (平成16年8月まで)

甲斐市教育委員会 (平成16年9月から)

調 查 主 体 者 敷島町文化財調查会

調査指導担当者

≪発 掘 調 査≫ 大嶌正之(敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係副主査)

≪整 理 調 査≫ 大嶌正之 (敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係副主査 平成16年8月まで)

(甲斐市教育委員会生涯学習文化課文化財担当副主査リーダー 16年9月から)

小坂隆司 (敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係嘱託 平成16年8月まで)

(甲斐市教育委員会生涯学習文化課文化財担当嘱託平成16年9月~12月まで)

調 査 事 務 局 敷島町文化財調査会(平成16年8月まで)

甲斐市教育委員会 (平成16年12月から)

5. 本書の執筆・編集は大嶌が担当し、整理作業については大嶌・小坂の指示のもと長田由美子、小林明美、 高添美智子、関本芳子、望月典子で実測、トレース、版組を行った。

図版中、遺跡の全景、遺構写真、遺物の写真撮影、図版編集は大嶌が行った。

- 6. 調査と報告書作成にあたり、次の方々よりご教示をいただいた。ご芳名を記し、感謝申し上げる。 羽中田壯雄、中込司郎、坂本美夫、畑 大介(旧敷島町文化財審議会委員)
- 7. 発掘調査ならびに整理作業参加者

青山制子、石川弘美、長田由美子、小林明美、関本芳子、高添美智子、保坂広昭、望月典子(敷島町文化財 調査協力員-平成16年8月まで、甲斐市文化財調査協力員-平成16年12月から)

牧野真一(創価大学学生-平成12年当時)

8. 本遺跡の出土遺物および調査で得られたすべての記録については一括して甲斐市教育委員会に保管してあ る。

# 月 例

- 1. 本書の第1図は国土地理院発行の地形図(1:25,000)「甲府市北部」「韮崎」「甲府」「小笠原」の各 一部を用いて作成したものである。
- 2. 遺物挿図中、断面が白抜きは土器・土師器類、 は須恵器で、土器・土師器表面の | は赤彩を
- 3. 図版中、遺構と遺物は縮尺が統一されていない。

# 本 文 目 次

第1章	遺跡をとりまく環境					
1.	遺跡の立地と環境				• • • • • •	
2.	周辺遺跡の概要					1
第2章	遺構と遺物					
					• • • • • •	4
						6
						6
第3章						
	事抄録 しょうしょう					10
INDE	37 24					
		挿	図	目	次	
第1図	松ノ尾遺跡と周辺の遺跡		2	第8図	9 ~	- 15号土坑
第2図	調査区位置図			第9図		~21号土坑 9
第3図	調査区全体図			第10図		~27号土坑10
第4図	1 号住居跡········			第11図		~30号土坑11
第5図	1号住居跡出土遺物		5	第12図	土均	t・ピット出土遺物12
第6図	1 号竪穴状遺構			第16図		<b>靖</b> 外出土遺物13
第7図	1~8号土坑		7			
		表	E	]	次	
第1表	1号住居跡出土遺物観察表 ·		11	第 4 実	\(\nu_0 \) \(\nu_0 \)	,卜出土遺物観察表15
第2表	土坑一覧表					特外出土遺物観察表······15
第3表	土坑出土遺物観察表			和日红	熄事	77山上退物既尔久 10
カリバ	工机田工退彻既尔孜		15			
		図	版	目	沙	
図版 1 -	- 1 調査区全景			図版 3 -	- 4	14号土坑
	- 2 1 号住居跡					15号土坑
図版 1 -				図版 3 -		16号土坑
図版 1 -				図版 3 -		17号土坑
図版 1 -				図版 3 -		18号土坑
図版 2 -				図版 4 -		19号土坑
図版 2 -				図版 4 -		20号土坑
図版 2 -				図版 4 -		21号土坑
図版 2 -				図版 4 -		22号~24号土坑
図版 2 -				図版 4 -		25号土坑
図版 2 -				図版 4 -		26号土坑
図版 2 -				図版 4 -		27号土坑
図版 2 -				図版 4 -		28・29号土坑
図版 3 -				図版 5 -		30号土坑(1)-集石
図版 3 -				図版 5 -		30号土坑 (2)
図版 3 -	- 3 13号土坑			図版 5 -	- 3	1 号住居跡出土遺物

# 第1章 遺跡をとりまく環境

#### 1. 遺跡の立地と環境(第1図)

甲斐市は、甲府盆地の北西部に位置し、県都甲府市の西側に隣接する。市内は、地形の特徴から大きく4つの地域に分けることができる。まず市内北部は、茅ケ岳、曲岳、太刀岡山など標高千メートルを超す山々が点在する山岳地帯で、急峻な地形を呈している。市西部は黒富士、茅ケ岳の火山活動によって形成された台地が広がり、通称『登美台地』『赤坂台地』と呼ばれる茅ケ岳南麓の丘陵地域となる。市東部は奥秩父山系の金峰山を源とする荒川が流れ、この荒川によって形成された扇状地域となっている。市南部は南アルプス鋸岳を源とする釜無川(富士川)によって形成された扇状地域である。

甲斐市は北部から中部にかけ山間地、丘陵地帯となり、南部は市の東西端を流れる荒川、釜無川によってできた扇状地となる。市内標高は最高が北部の1703.5m、最低が南部264.9mと標高差1400mを超え、バリエーションに富んだ環境である。

報告する三昧堂遺跡は市西部にあり、荒川によって形成された扇状地の扇頂部末端に位置し、微高地上に営まれた集落遺跡である。標高292mを測る。

なお、甲斐市は平成16年9月1日に中巨摩郡竜王町、同敷島町、北巨摩郡双葉町が合併し誕生した市で、この三昧堂遺跡は旧敷島町に所在する遺跡である。

#### 2.三昧堂遺跡と周辺の遺跡(第2・3図)

遺跡は、甲府市との境界を流れる荒川と黒富士、茅ケ岳によって形成された通称登美台地との間に位置する。 この登美台地と荒川の間(旧敷島町域)には南北に延びる2本の微高地があり、本遺跡は東側微高地の西端に営まれた遺跡である。遺跡は微高地端に位置し、遺跡西側は谷状地形になるため、遺構、遺物数は少ないといえる。

遺跡南側、西側には接して松ノ尾遺跡がある。松ノ尾遺跡は平成6年('94)に第1次の調査が実施されて以来これまでに12次に亘る発掘調査が行われ、縄文時代中期から後期、弥生時代後期、古墳時代前、後期、奈良時代から室町時代に至る住居跡や掘立柱建物跡などが発見された大複合遺跡である。松ノ尾遺跡の特質は、奈良、平安時代にあり、これまでに銅製小金銅仏2躯、円面硯4固体分をはじめ、布目瓦、螺髪、緑釉陶器(耳皿、碗など)、青磁、貿易陶磁器、帯金具、銅鋺片など特殊遺物が多く出土している。このため、官衙関連遺跡の可能性も指摘されている。

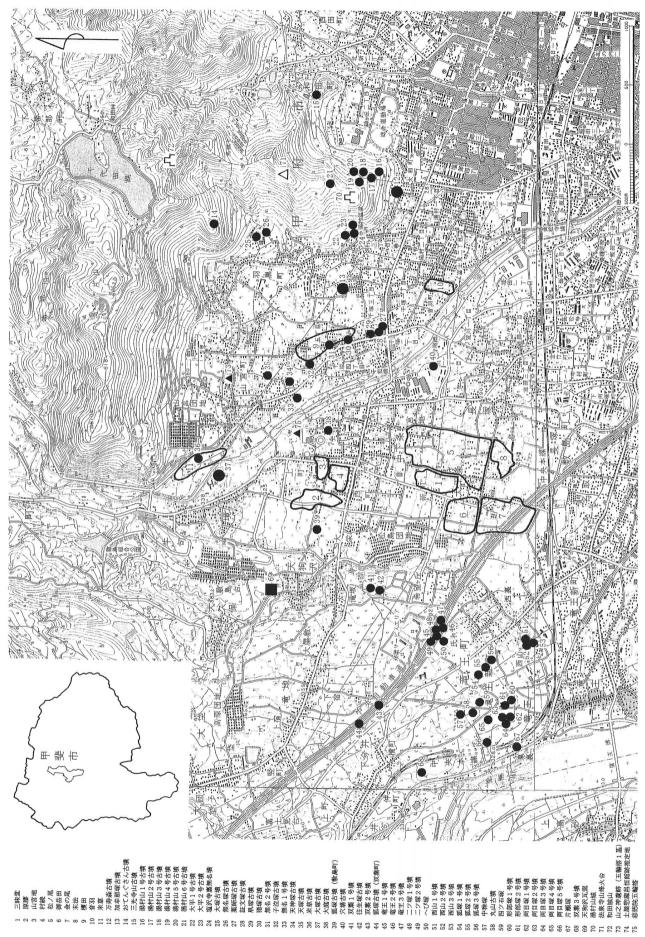
遺跡西側の浅い谷状地形を越えると西側の微高地となる。三昧堂遺跡南西にはこの西側微高地上に営まれた御岳田遺跡がある。御岳田遺跡は古墳時代前期、後期、平安時代を中心とする集落跡で、これまでに加工途中の水晶製丸玉などが出土している。

御岳田遺跡の南に隣接して金の尾遺跡が所在する。弥生後期を中心とする環濠集落跡で、これまでに周溝墓23基、住居跡33軒が出土し、この他にも古墳時代前期周溝墓3基、同期住居跡などが発見されている。遺跡の全容はまだ明らかにはなっていないが、本県の弥生時代を代表する遺跡といえる。

三昧堂遺跡西方の台地には古墳時代後期の群集墳『赤坂台古墳群』がある。現在は7基が確認されている。

遺跡北西の通称敷島台地には7世紀後半とされる瓦陶兼業窯の天狗沢登り窯跡がある。3基の窯跡が調査されており本県最古の窯跡である。

以上のとおり三昧堂遺跡周辺には縄文時代から連綿と人間の生活が営なまれてきていることが明らかとなってきている。特に奈良時代から平安時代にかけては政治、経済、文化の中心的役割をなした地域と言える。





5 3 2 ○ 3± ○ 4± 29± 30± 0 0 27± **⊘**<sub>5±</sub> © 25± 6± 0 1竪 8 8± 0 00 С (1:200)

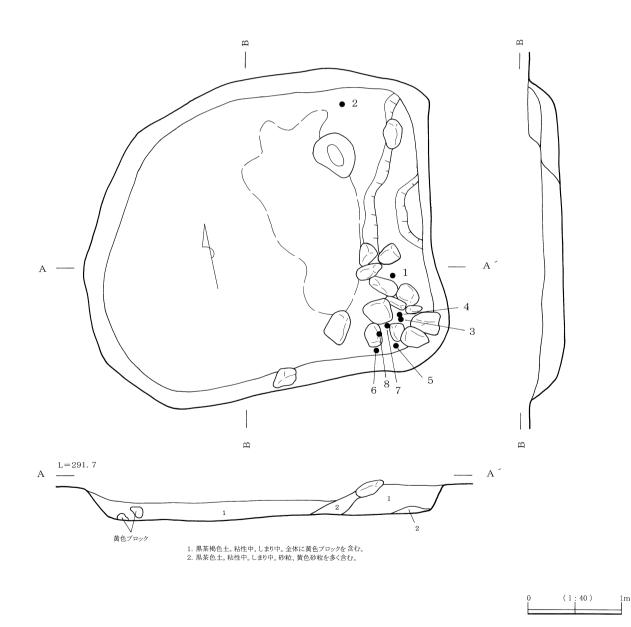
第3図 遺構配置図

# 第2章 遺構と遺物

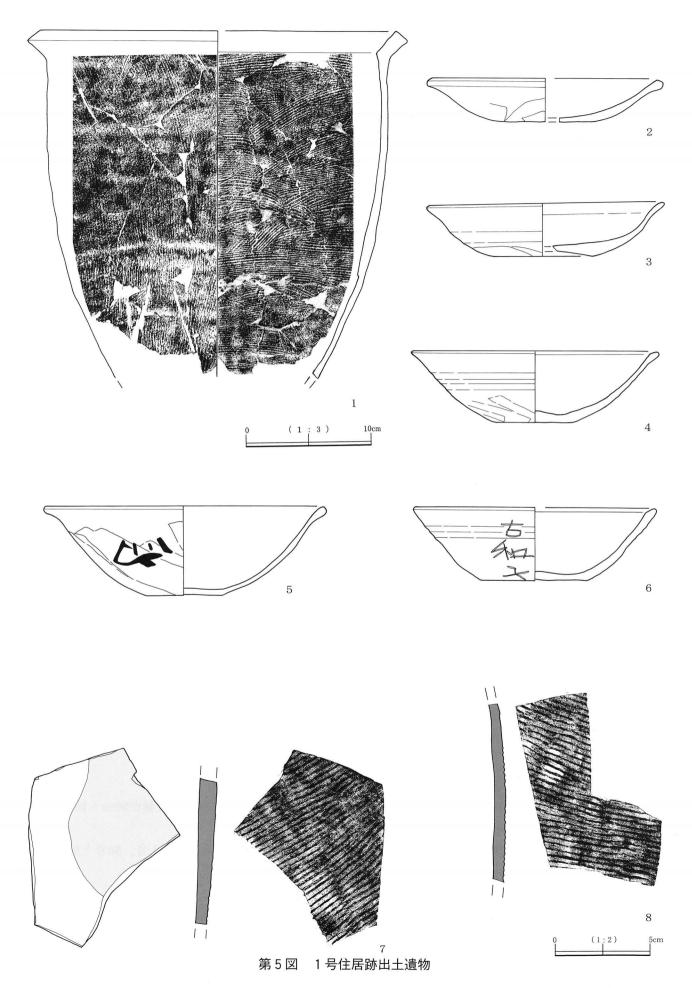
三昧堂遺跡は、敷島地区南部に広がる扇状地内東側微高地の西端に位置する。浅い谷への落ち込み際ということなのだろうか、遺構、遺物の密度は薄いといえる。今回の調査においても住居跡は1軒、竪穴状遺構1基、土坑30基、ピット群のみの発見であり、遺構希薄な状況を追認する結果となった。

#### a. 1号住居跡(第4図、第1表、図版1-2)

調査区西端の1A、1Bグリットにまたがり位置する。遺構の西側三分の二が1号竪穴状遺構によって切られているため住居規模は明確ではないが凡そ、一辺東西3.7m、南北3.5mのほぼ正方形を呈すると考えられる。壁高は27cmを測り、住居東南コーナーにカマドを設ける。カマドは花崗岩質の河原石で構築されており、カマド内からは逆位に「南」と墨書された土師器坏や、正位に「古和子」と刻書された土師器皿などが出土している。遺構年代は出土遺物などから、10世紀前半から半ば頃と考えられる。



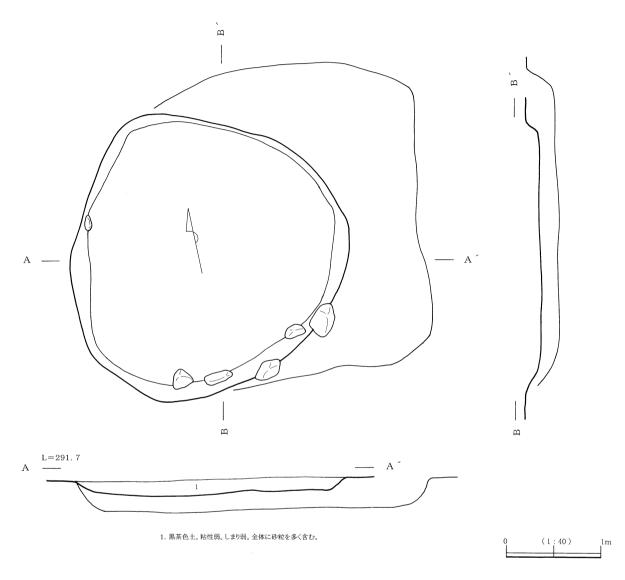
第4図 1号住居跡



#### b. 1号竪穴状遺構(第6図、図版1-5)

遺構は、1A、1Bグリットにまたがり、1 号住居跡と重複関係にある。1 号住居跡を切って存在する。遺物は土師器小片が少量出土したのみで図化できるものは無かった。

規模は直径約2.9mの円形を呈し、壁高は15cmを測る。1 号住居跡が10世紀前半頃と考えられるため、本遺構の年代はそれ以降となる。



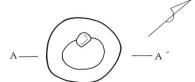
第6図 1号竪穴状遺構

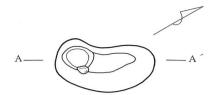
#### c. 土坑(第7~12図、第2表、図版2~5)

今次調査において30基の土坑を調査した。形状は円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸が58cm $\sim 166$ cm、短軸が33cm $\sim 117$ cmで、統一性は見られない。

土坑は調査区の東側に偏在して確認され、27号、29号土坑より土師器坏、羽釜が、8号、30号土坑より土師質土器小皿、坏が出土している。







L=292.0





1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。 2. 黄褐色土。粘性なし。しまり弱。黄色砂粒層。

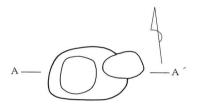
黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。
 黄褐色土。粘性なし。しまり弱。黄色砂粒層。

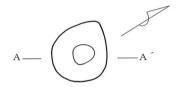
1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。

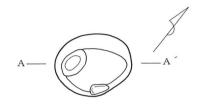
1号土坑

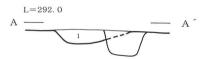
2号土坑

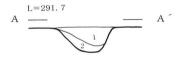
3号土坑













1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。

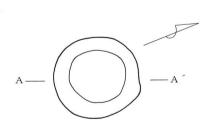
黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。
 黄褐色土。粘性なし。しまり弱。黄色砂粒層。

1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。

4号土坑

5号土坑

6号土坑





1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。

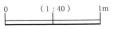
L=291.6

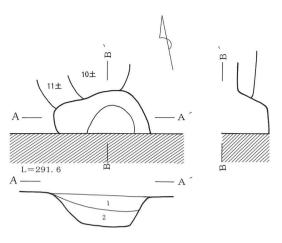


#### 7号土坑

- 1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。 2. 黄褐色土。粘性なし。しまり弱。黄色砂粒層。

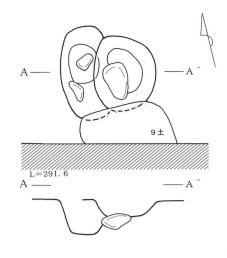
#### 8号土坑



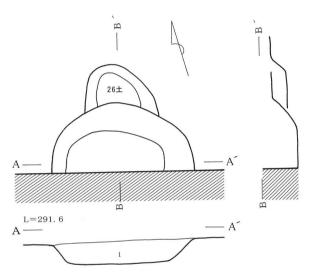


- 1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。 2. 黄褐色土。粘性なし。しまり弱。黄色砂粒層。

9号土坑

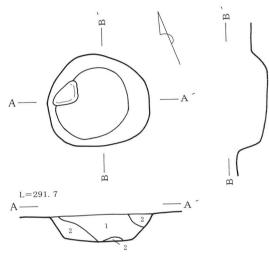


11号土坑 10号土坑

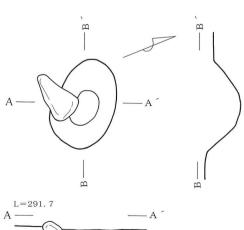


1. 黒茶色土。粘性弱。しまり中。全体に砂粒を多く含む。

12号土坑

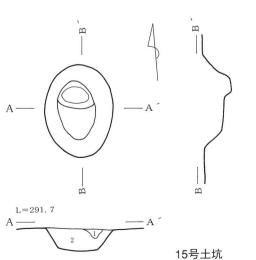


1. 暗茶褐色土。粘性弱。しまり中。砂粒を多く含む。 2. 黄褐色土。粘性弱。しまり中。黄色砂粒を多く含む。



14号土坑 1. 暗茶褐色土。粘性弱。しまり中。砂粒を多く含む。 2. 黄褐色土。粘性弱。しまり中。 黄色砂粒を多く含む。

暗茶褐色土。粘性弱。しまり中。砂粒を多く含む。
 黄褐色土。粘性弱。しまり中。黄色砂粒を多く含む。

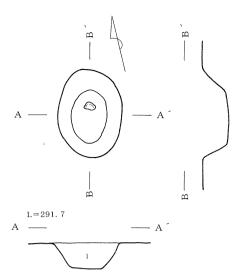


(1:40)

1m

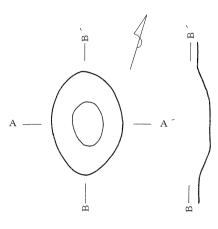
13号土坑

# 第8図 9~15号土坑



1. 暗茶褐色土。粘性弱。しまり中。砂粒を多く含む。

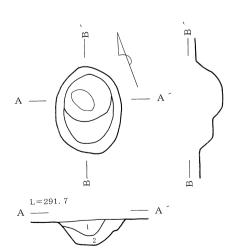




A — A

1. 黄褐色土。粘性弱。しまり中。黄色砂粒を多く含む。

18号土坑



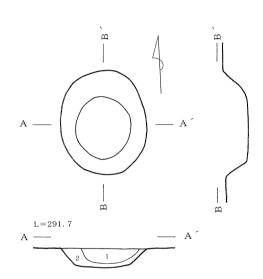
暗茶褐色土。粘性中。しまり中。 小石を少量含む。
 明茶褐色土。粘性中。しまり弱。 黄色砂粒を多く含む。

20号土坑

A — A — A — A — A

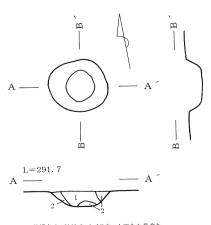
1 黒色土。粘性強。しまり強。炭化物を少量含む。

17号土坑



1. 暗茶褐色土。粘性中。しまり中。 小石を少量含む。 2. 黄褐色土。粘性弱。しまり中。 黄色砂粒を多く含む。

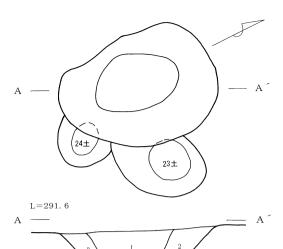
19号土坑



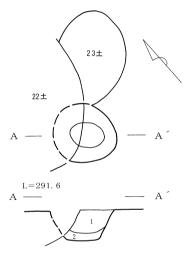
1. 茶褐色土。粘性中。しまり中。小石を少量含む。 2. 黄褐色土。粘性中。しまり中。黄色砂粒を多く含む。

21号土坑 (1:40)

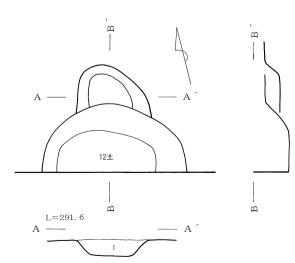
第9回 16~21号土坑



- 黒褐色土。粘性強。しまり中。小石を少量含む。
  明茶褐色土。粘性中。しまり弱。長石を含む。
  - 22号土坑

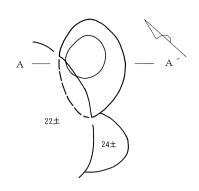


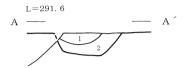
- 1. 茶褐色土。粘性中。しまり中。小石を少量含む。 2. 黄褐色土。粘性中。しまり中。黄色砂粒を多く含む。
  - 24号土坑



1. 黒茶褐色土。粘性弱。しまり中。小石を少量含む。

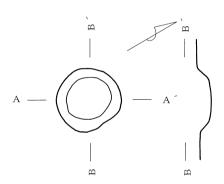
26号土坑





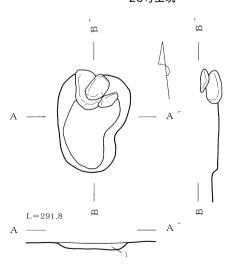
- 1. 茶褐色土。粘性中。しまり中。小石を少量含む。
- 2. 黄褐色土。粘性中。しまり中。黄色砂粒を多く含む。

#### 23号土坑





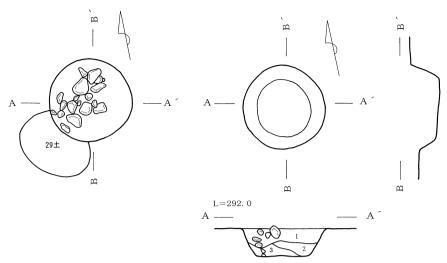
- 黒褐色土。粘性中。しまり強。小石を少量含む。
  灰褐色土。粘性中。しまり中。小石を含む。
  - 25号土坑



1. 茶褐色土。粘性中。しまり弱。黄色砂粒含む。

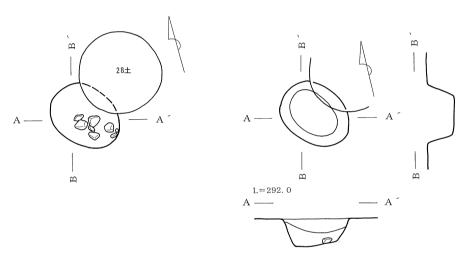
27号土坑 0 (1:40) 11

第10図 22~27号土坑

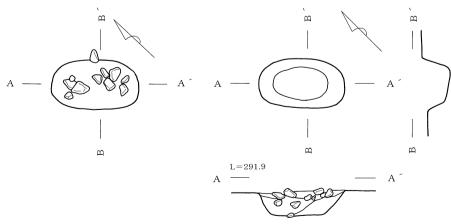


- 1. 暗茶褐色土。粘性弱。しまり中。金雲母を含む。 2. 暗茶褐色土。粘性弱。しまり弱。黄色砂粒を多く含む。 3. 黄褐色土。粘性弱。しまり弱。黄色砂粒層。

#### 28号土坑



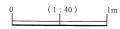
- 1. 暗茶褐色土。粘性弱。しまり強。小石を含む。 2. 黄褐色土。粘性中。しまり中。黄色砂粒を多く含む。 3. 黒色土。粘性強。しまり弱。全体に微砂粒を含む。
  - 29号土坑

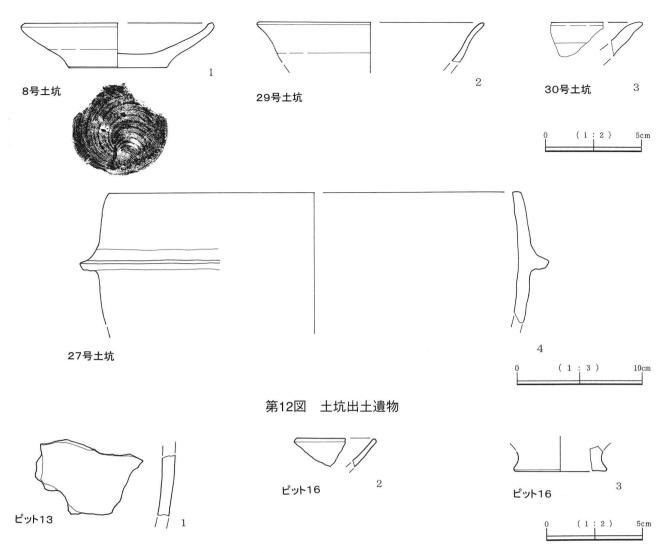


1. 茶褐色土。粘性弱。しまり弱。雲母を少量含む。

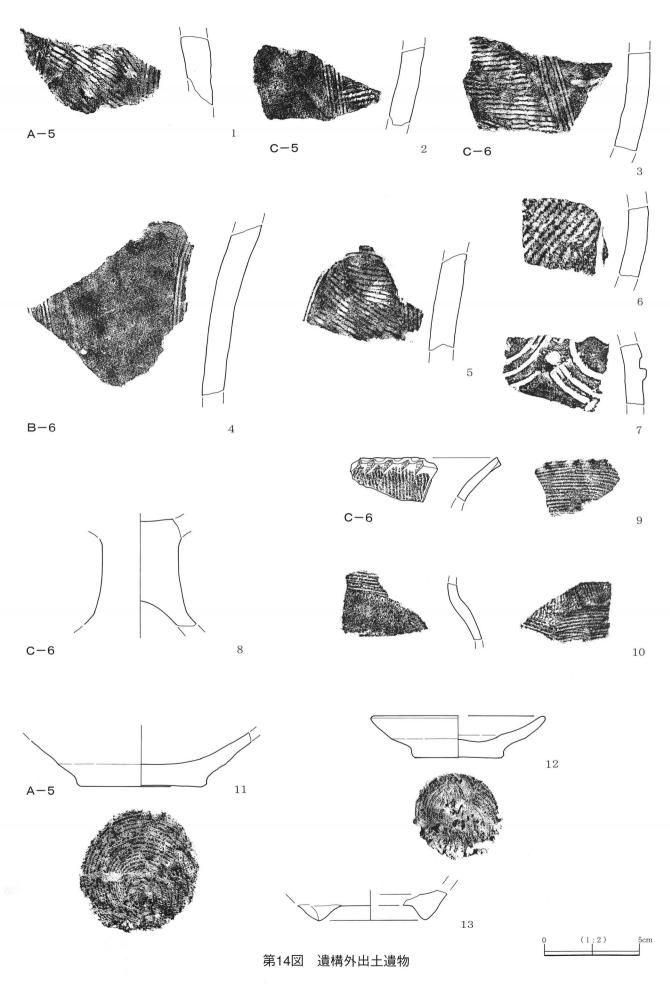
30号土坑

# 第11図 28~30号土坑





第13図 ピット出土遺物



## 第1表 1号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	器形	計測値		胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図	図版
1	土師器	甕	推定口径 2	28.0cm	金雲母・長石・石英	暗茶褐色	良好	内面横方向のハケ目。 外面縦方向のハケ目。	5	1
2	土師器	Ш	推定口径 1	2.3cm 1.8cm 5.2cm	赤色粒子 明茶褐色 良好 外面底部にかけてヘラ削り。		5	1		
3	土師器	Ш	口径 1	2.9cm 2.4cm 5.3cm	長石・赤色粒子 明茶褐色 良好 外面底部にかけてヘラ削り。 底部糸切痕。		5	1		
4	土師器	坏	推定口径 1	3.8cm 2.8cm 4.0cm	長石・赤色粒子	色粒子 暗茶褐色 良好 外面底部にかけてヘラ削り。		5	1	
5	土師器	坏	口径 1	4.8cm 4.6cm 4.0cm	長石多量	明褐色 良好 外面体部に墨書有り。 外面底部にかけてヘラ削り。		5	1	
6	土師器	坏	推定口径 1	3.8cm 2.6cm 5.6cm	長石・赤色粒子	明茶褐色	良好	外面体部に刻書有り。	5	1
7	須恵器	甕			長石・石英	明灰色	良好	朱墨を使用した転用硯。	5	1
8	須恵器	甕			長石・石英	暗茶褐色	良		5	1

# 第2表 土坑一覧

番号	位	置	平面形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物・備考
1 号土坑	A - 2	Gr	楕円形	99	40	25	PILIZIPO PIII S
2号土坑	C-3	Gr	円形	76	67	18	
3号土坑	A-3	Gr	楕円形	105	48	20	
4号土坑	A-3	Gr	楕円形	83	57	15	
5 号土坑	B-4	Gr	円形	58	58	28	
6 号土坑	B-3	Gr	楕円形	82	67	15	
7号土坑	C-4	Gr	円形	89	85	25	
8号土坑	C-4	Gr	円形	150	117	20	土師質土器小皿
9 号土坑	C-5	Gr	楕円形	97	45	30	9号・10号土坑に切られる。
10号土坑	C-5	Gr	楕円形	76	65	17	
11号土坑	C-6	Gr	楕円形	97	33	36	
12号土坑	C - 6	Gr	楕円形	149	73	25	
13号土坑	В-6.	7 Gr	円形	107	95	23	
14号土坑	B-6	Gr	楕円形	95	56	32	
15号土坑	B-6	Gr	楕円形	98	72	28	
16号土坑	A-6	Gr	楕円形	93	68	26	
17号土坑	B-6	Gr	楕円形	135	80	27	
18号土坑	B-6	Gr	楕円形	110	75	12	
19号土坑	B-6	Gr	楕円形	112	90	27	
20号土坑	B-5	Gr	楕円形	91	68	26	
21号土坑	B-5	Gr	円形	62	55	16	
22号土坑	C-5	Gr	楕円形	166	108	40	
23号土坑	C-6	Gr	楕円形	100	69	23	22号土坑に切られる。
24号土坑	C-5	Gr	円形	62	62	34	22号土坑に切られる。
25号土坑	B-5	Gr	円形	69	67	18	
26号土坑	C-6	Gr	楕円形	70	39	17	12号土坑に切られる。
27号土坑	A-1	Gr	不整形	104	74	10	羽釜
28号土坑	A - 1	Gr	円形	88	87	28	
29号土坑	A-1	Gr	楕円形	70	62	8	土師質土器坏。28号土坑に切られる。
30号土坑	A-1	Gr	楕円形	91	53	27	土師質土器坏

#### 第3表 土坑出土遺物観察表

No.	器 種	器形	計 測	値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	番号	挿図
1	土師質土器	小皿	器高 推定口径 底径	2.4cm 10.0cm 5.2cm	金雲母多量	暗茶褐色	良好	底部糸切痕。	8号土坑	12
2	土師器	坏	推定口径	11.8cm	金雲母	暗茶色	良好		29号土坑	12
3	土師質土器	坏			金雲母・長石	暗茶色	良好		30号土坑	12
4	土師器	羽釜	推定口径	31.2cm	長石多量	黒茶色	良		27号土坑	12

## 第4表 ピット出土遺物

Nα	器 種	器形	計 測 値	胎土	色 調	焼成	器形の特徴	番号	挿図
1	土師器			長石多量	茶褐色	良		ピット13	12
2	土師器	坏		長石多量	茶褐色	良		ピット16	12
3	土師質土器	柱状高台	推定口径 4.7cm	金雲母・長石	茶褐色	良好		ピット16	12

# 第5表 遺構外出土遺物

	BB 44		- I and	64.	п/ т	m	Late . Do	DELTY of the Ally	28.11 1	15.15
No.	器種	器形	計測	値	胎土	色調	焼成		グリット	挿図
1	縄文土器	   深鉢			粗い。	淡茶色	良	半裁竹管による2条の沈線。	A - 5	13
1	作人工和	17个坐下			711. • 0	DC/K L	IX.	縄文LR。		10
	νπ. Т. пп	Smr. A.L.			WII v	ンドーサーク	,.,	半裁竹管による2条の沈線。	C-5	13
2	縄文土器	深鉢			粗い。	淡茶色	良	縄文LR。	C - 5	
		\ A.I			, let	NA -H- I H- A		半裁竹管による2条の沈線。		
3	縄文土器	深鉢			粗い。	淡茶褐色	良良	縄文LR。	C-6	13
								半裁竹管による2条の沈線。		
4	縄文土器	深鉢			粗い。	淡茶色	良	磨り消し。	B-6	13
					長石・黒色雲母					
5	縄文土器	深鉢			白色粒子	赤褐色	良	沈線。縄文LR。	確認面	13
					L1 C12 1			半裁竹管による2条の沈線。		
6	縄文土器	深鉢			粗い。	淡茶色	良	縄文LR。	確認面	13
					金・黒色雲母			作又し八。		
7	縄文土器	深鉢				淡茶色	良	沈線。	確認面	13
-	1 47 55 1 111		1-17		白色粒子	++ <i>b</i>	,1,	亡さ! <b>4</b> 1π 亡	0.0	10
8	土師質土器	坏	底径	6.4cm	金雲母多量	茶色	良	底部糸切痕。	C - 6	13
	t describe to the		器高	2.3cm				-t- 1-1 / 1-1 -t-		1.0
9	土師質土器	小皿	推定口径	8.9cm	長石・雲母	赤褐色	良好	底部糸切痕。	C-6	13
		l. l	底径	4.6cm						
10	土師器	高坏			長石・赤色粒子	明茶褐色	色 良好		確認面	13
								口縁部キザミ。		
11	土師器	甕			長石多量	淡茶褐色	色 良	内面横方向のハケ目。	A-5	13
								外面縦方向のハケ目。		
12	土師器				  長石・石英	   淡茶褐色	色良	内面横方向のハケ目。	確認面	13
12	上即位				区位:石类	火炸肉目		外面縦方向のハケ目。	1年 11 0日 日1	10
1.0	1. Act 8.0	壬辰			長石・石英	ンド・サーク	± 4.7		7次到 正	10
13	土師器	香炉			赤色粒子	淡茶色	良好		確認面	13

# 第3章 まとめ

今回の調査では、平安時代住居跡、平安から中世にかけての土坑跡、竪穴状遺構、ピットが調査された。この 他の遺構は確認されなかった。

遺物は遺構外で出土した縄文時代中期深鉢片の他は平安末を中心とする土師器、土師質土器が中心であった。 1号住居跡からは土師器甕、坏、皿など比較的豊富で良好な遺物が出土している。第5図7は須恵器甕片で、内面に朱墨痕が看取されることから転用硯の可能性が高い。

三昧堂遺跡は、荒川によって形成された扇状地内にある微高地の西端に位置する。この微高地上には布目瓦や螺髪、円面硯、小金銅仏などが出土した松ノ尾遺跡や古墳時代全般にわたる住居跡が発見された末法遺跡がある。特に松ノ尾遺跡とは隣接しており、遺構、遺物内容、地形的条件などから同一遺跡として扱っても支障はないものと思われる。

今次調査における発見住居跡数は1軒であり、調査区東側に広がる松ノ尾遺跡中心部と比較し極端に希薄になる。この傾向は、調査区のさらに西側において実施した第2次調査や北側で実施した試掘調査によっても同様の結果となっている。これは、微高地西端部の谷の周縁部という地形的条件によるものと考えられ、今回の調査において、微高地西縁部の様相の一端を明確にすることができた。

甲斐市東部の荒川扇状地域には二筋の微高地があり、この微高地上に縄文時代からの集落が営まれたことが近年の発掘調査から明らかとなってきている。特に東側微高地は高地の東西幅が長いことから面積が広く、尚且つ東側が荒川に面しているため水路交通の便もよく、高地北側を東西に横断する穂坂路の存在からも安定した土地と水陸路交通の要所となっている。遺跡北西部に位置する『県指定史跡天狗沢瓦窯跡』の存在など周辺遺跡も考慮に入れれば、東側微高地上に営まれた遺跡群は一般的な集落とは異なった有力豪族、官衙機構と密接な関係を持った遺跡である可能性が高いと言えよう。

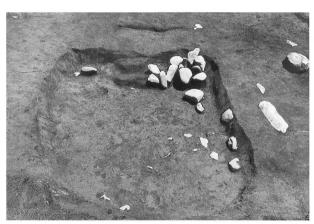
#### 参考文献

大嶌正之、小坂隆司 2004 「埋蔵文化財試掘調査年報 '04」敷島町教育委員会

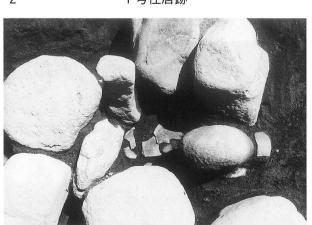
# 写真図版



三昧堂遺跡 | 次調査区全景

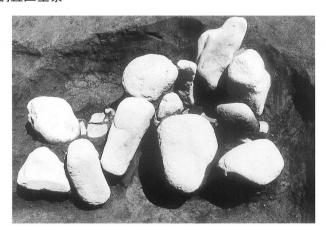


2 1号住居跡



1号住居跡カマド(2)

4

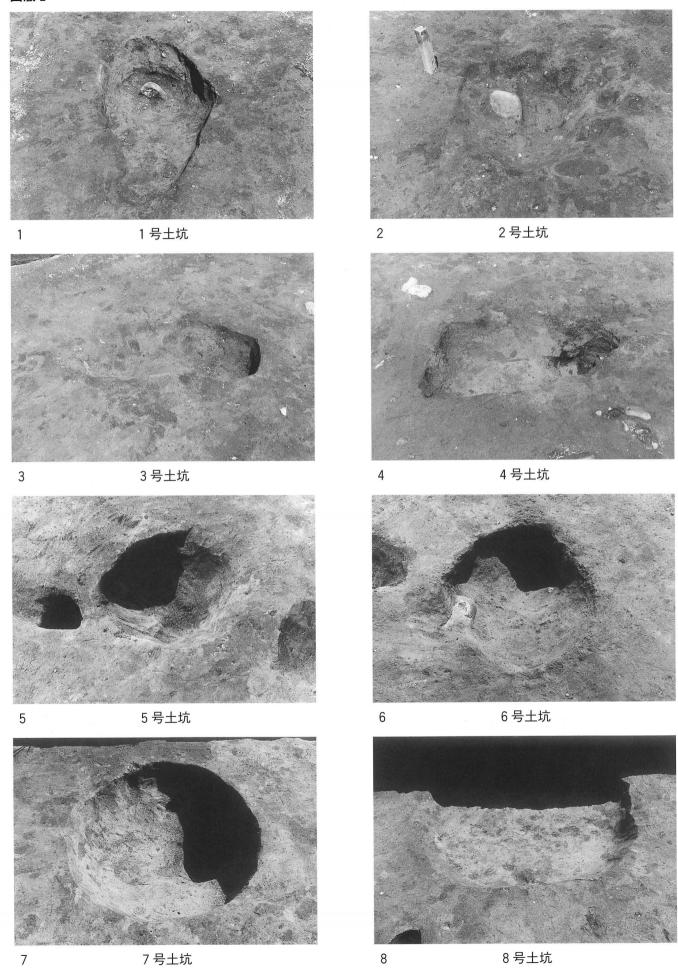


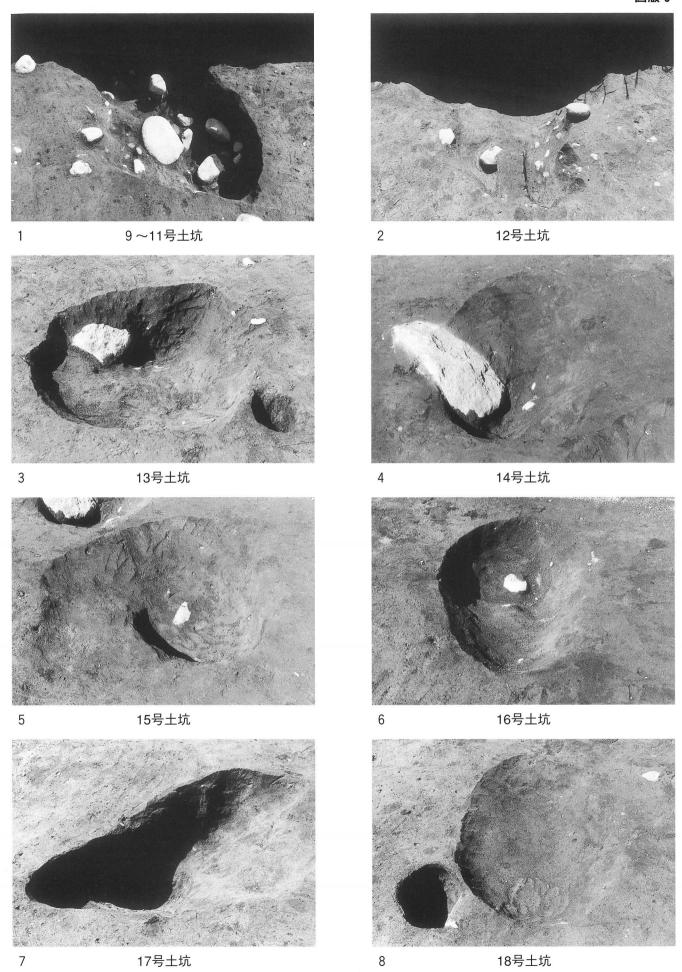
3 1号住居跡カマド(1)



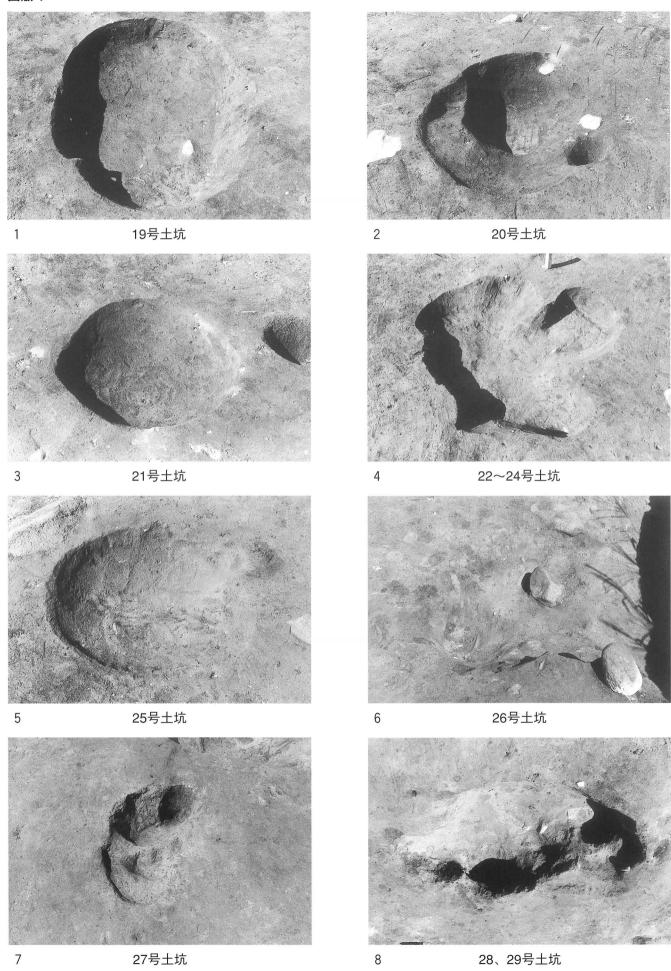
1号竪穴状遺構

# 図版 2

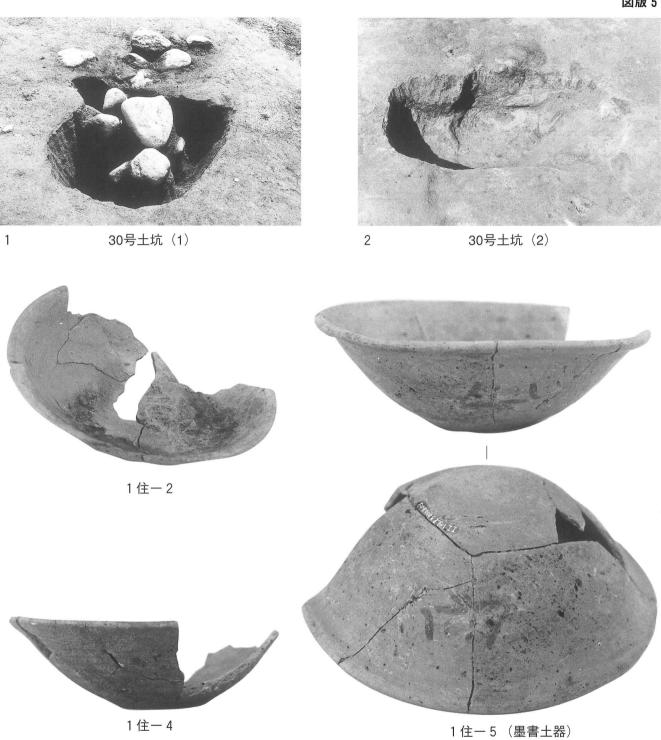




図版 4



# 図版 5



1号住居跡出土遺物

3

# 報告書抄録

ふりがな	さんまいどういせ	き										
書名	三 昧 堂 遺	三、味、堂、遺、跡、I										
副 書 名												
卷  次												
シリーズ名	甲斐市文化財調查	甲斐市文化財調査報告第3集										
シリーズ番号	3											
編著者名	大 嶌 正 之											
編集機関	甲斐市教育委員会	Š										
所 在 地	〒407-0105 山	〒407-0105 山梨県甲斐市下今井236番地 2										
発行年月日	平成17年 [西暦2005] 7月15日											
ふりがな	1 . Ist	コー	200 <del>4</del> 2 HH 00									
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因						
	.1.40.18			平成12年								
さんまいどういせき	山梨県 甲斐市			7月21日								
三昧堂遺跡	中安	19210	敷-27	~	463 m <sup>2</sup>	マンション建設						
	外			平成12年								
	71			8月23日								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項							
		縄文・弥生・古墳	住居跡	土師器								
三昧堂遺跡	集 落 跡	一種又・弥生・百頃   平安・中世	土坑	須恵器								
		一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	竪穴状遺構	土師質土器								

# 甲斐市文化財調查報告 第3集

# 三 昧 堂 遺 跡 I

発 行 日 2005年 (平成17年) 7月15日

発 行 甲斐市教育委員会

山梨県甲斐市下今井326番地2

TEL 0551 (20) 3658

印 刷 株式会社 少 國 民 社

